

京都大学大学院 学生員 ○坪田 樹
 岐阜大学 正会員 田中尚人
 京都大学大学院 正会員 川崎雅史

1. 序論

本研究は、明治から戦前のいわゆる近代期に実施された鉄道や電気事業などのインフラストラクチャー整備が、都市や人々の都市生活に与えた影響を分析することにより、近代都市宇治がどのように形づくられたのか、また都市イメージを形成したのかを明らかにし、今後のインフラストラクチャー整備に活かすことを目的とする。

本研究では、近世以来宇治を都市として特徴づけてきた名所と茶に焦点を当て、宇治の近代化について歴史的資料、文献、現地調査を行った。

2. 宇治の都市イメージ形成

本章では、近世宇治において形成された都市イメージを絵図や史料を用いて明らかにした。

2.1 宇治の名所

古代より和歌に詠まれた宇治川を中心とする山河の美は、近世には名所図や名所案内などのメディアにより、宇治の名を全国に知らしめた。そこに描かれた山河の美や寺社が創り出す風雅は、宇治の都市イメージの基盤として存在していた。

2.2 茶所宇治

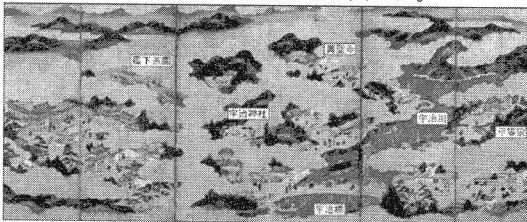
宇治茶師が編み出した覆下栽培によって質・量共に日本随一の茶産地となった宇治は、茶師である上林家が世襲代官に任命されることにより、茶所という都市イメージを確立したと言える。

2.3 近世宇治の都市イメージ

【名所】宇治川を中心とする山河の美と、平等院などの寺社が創り出す神秘的な世界

【名物】あらゆるものが茶に結びつき、優良茶を生産する茶一色の世界

これら2つが近世宇治を支えた都市イメージの重要な要素となっていたと言える<図-1>。



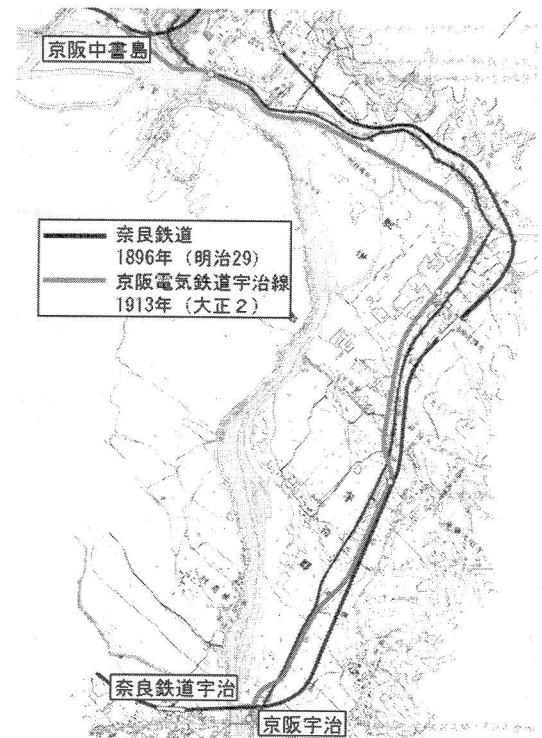
<図-1 近世の絵図に描かれた宇治>

3. 鉄道敷設による都市イメージの近代化

本章では、近代を代表するインフラストラクチャーである鉄道が、近世以来宇治の都市イメージを形成してきた名所と茶に与えた影響を分析した。

3.1 宇治における鉄道敷設

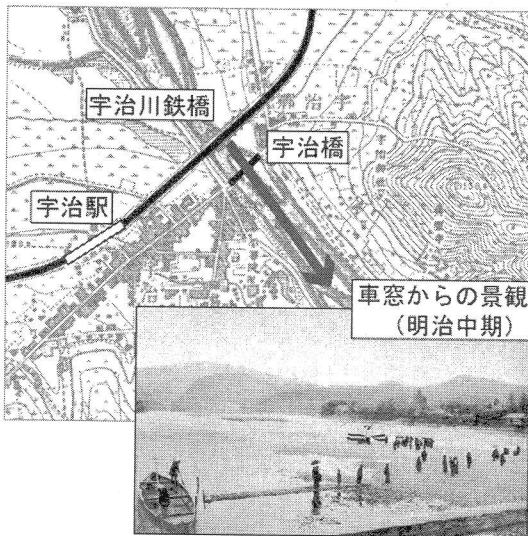
宇治では、1896年（明治29）に奈良鉄道、1913年（大正2）に京阪電気鉄道宇治線の2つの鉄道が敷設された<図-2>。



<図-2 宇治における鉄道敷設>

3.2 名所遊覧の近代化

鉄道の路線選定や駅設置に際して、近世以来宇治の都市イメージの重要な要素となってきた宇治川を中心とする山河の美が意識されていた<図-3>。つまり、近代化の象徴とも言える鉄道の車窓や駅から、近世以来継承されてきた宇治を代表する景観が眺められていた訳である。また、駅舎も鳳凰堂を擬して建設されるなど、近世宇治の都市イメージ継承への意識が見られる。

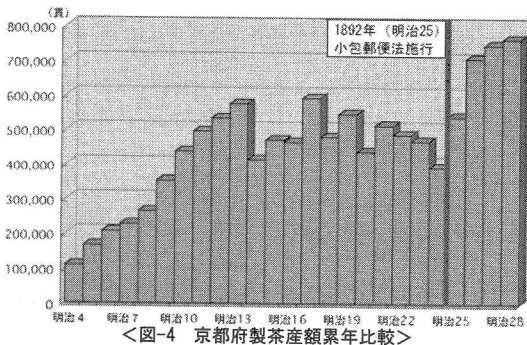


＜図-3 奈良鉄道敷設と宇治の景観＞

また、鉄道敷設以後、遊覧列車の運行や公園整備、遊覧道路の建設なども行われた。蛍狩や鶺鴒などのイベントも開催されるようになり、宇治は日帰りでできる手軽な観光地化した。

3.3 宇治茶の広がりや宇治の都市イメージ

1892年（明治25）小包郵便法が施行され、鉄道を利用して急速に広まった。間もなく小包を利用した宇治茶の通信販売も開始された。前年まで減少していた京都府の製茶産額が増加に転じたのは、通信販売の効果の現れと考えられる＜図-4＞。こうした宇治茶の商圈の拡大は、同時に、宇治茶に支えられた宇治の都市イメージの拡大に繋がったと言える。



＜図-4 京都府製茶産額累年比較＞

4. 電気事業による都市イメージの近代化

本章では、近代において人々の都市生活に最も大きなインパクトを与えたと考えられる電気事業が、近世以来宇治の都市イメージを形成してきた名所と茶に与えた影響を分析した。

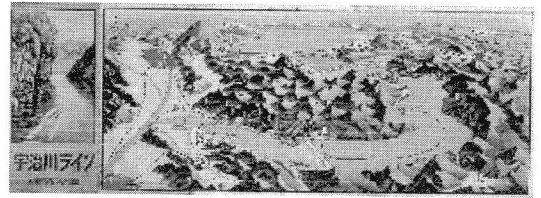
4.1 宇治における電気事業の展開

宇治では、1913年（大正2）に宇治川電気と宇治町営電気の2つの電気事業が実施された。

4.2 名所の近代化

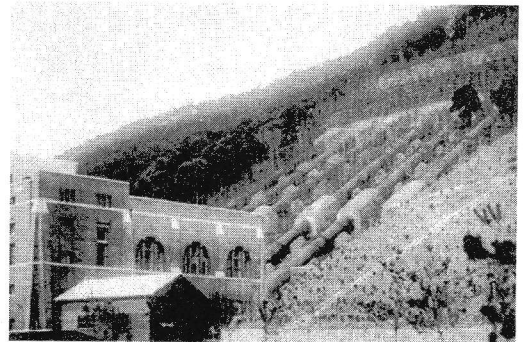
宇治川の豊富な水と鉄道による輸送力に加え、電

力が容易に得られたことにより、宇治には工業都市としての都市イメージが付加された。また、ライトアップやダム湖に就航した宇治川ライン＜図-5＞など、電力や発電施設を利用した新名所が創出された。



＜図-5 宇治川ライン＞

電力は工業や新名所を生み出したが、発電所建設は環境破壊そのものであった。これに対し宇治では、近世以来、名所遊覧の中心であった山河の美を守る最大限の努力が払われた＜図-6＞。



＜図-6 植樹工事後の仏徳山＞

4.3 宇治茶の継承

近世以前からの手揉みによる製茶は、重労働にもかかわらず生産量は限られていた。機械製茶の品質は手揉みには到底及ばなかったが、戦争による経済的影響は、機械化を促進した。電力を利用した製茶機械が導入されたが、近世以来優良品至上主義をモットーとしてきた宇治では、茶の品質を守るため、「半機械製」の製法であった。

5. 結論

近代宇治では、鉄道・電気事業というインフラストラクチャー整備が、近世都市宇治を支えた都市イメージを一新させたのではなく、インフラストラクチャーの力を巧みに利用して、構成要素を変型させることによって都市イメージそのものは継承された。これにより宇治は都市の個性が維持され、魅力を失うことなく近代化したと言える。

主要参考文献

- ・ 宇治市役所：宇治市史1～4、1973.1～1978.2
- ・ 京阪電気鉄道株式会社：鉄路五十年、1960.12
- ・ 宇治川電気株式会社：第一期水力電気事業沿革志、1916.10